

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕

改訂日：2023/01/11

SHOWA fine various reagents



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/01/11
SDS整理番号 08210250

製品等のコード : 0821-0250、0820-9230、0821-0260、0821-0280、0821-0290、0820-9290

製品等の名称 : 硫酸ヒドロキシルアンモニウム (硫酸ヒドロキシルアミン)

推奨用途 : 試薬

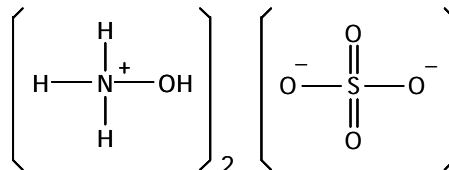
参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
酸化防止剤及び安定剤、繊維の染色材料、油脂精製工程の着臭、
酸化防止剤、バクテリア酵素の成長防止剤、写真(現像液の安定剤)、
食品(甘味料合成中間体)、医薬(抗生物質の製造時)など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類



物理化学的危険性
自己反応性化学品

: タイプG

爆発物 : 区分に該当しない
可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
酸化性固体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
急性毒性(経皮) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
皮膚感受性 : 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(血液)、
区分2(中枢神経系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(造血系)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分2

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
皮膚に接触すると有害(経皮)
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
血液の障害
中枢神経系の障害のおそれ

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕

改訂日：2023/01/11

長期又は反復ばく露による造血系の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露した時、又は気分が悪い時：医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	硫酸ヒドロキシルアンモニウム (別名) 硫酸ヒドロキシルアミン、2ヒドロキシルアミン・硫酸塩、 2ヒドロキシルアミン・硫酸、 ヒドロキシルアミン・0.5硫酸塩、 ヒドロキシルアミン・0.5硫酸、 硫酸ビス(ヒドロキシルアミン)、 硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム) (英名) Hydroxyl ammonium sulfate、 2Hydroxylamine・sulfuric acid、 Hydroxylamine・0.5sulfuric acid、 Bis(hydroxylamine) sulfate、Oxammoniumsulfate、 Bis(hydroxylammonium) sulphate (EC名称)、 Hydroxylamine, sulfate (2:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	:	硫酸ヒドロキシルアンモニウム、95.0%以上(乾燥後)
化学式、構造式	:	(NH ₃ OH) ₂ SO ₄ 、H ₈ N ₂ O ₆ S、(NH ₂ OH) ₂ ·H ₂ SO ₄ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	164.14
官報公示整理番号	:	(1)-375
化審法	:	本品は、ヒドロキシルアミンと硫酸の塩であるため、 新規化学物質として取り扱わない。 ヒドロキシルアミン；(1)-375 硫酸；(1)-430
CAS No.	:	10039-54-0
EC No.	:	233-118-8
危険有害成分	:	硫酸ヒドロキシルアンモニウム

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激または皮膚発疹が生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日：2023/01/11

- 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後洗浄を続ける。
- 飲み込んだ場合 : 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
直ちに、口をすすぎ、うがいをする。
水に活性炭を懸濁した液を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。
速やかに、医師の診察を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状 : 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
- 吸入 ; 症状は「経口摂取」の項を参照。
皮膚 ; 皮膚から吸収される可能性あり。
発赤。
眼 ; 発赤、痛み
経口摂取 ; 紫色(チアノ - ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ - ゼ)の皮膚、錯乱、けいれん、めまい、頭痛、吐き気、意識喪失

5. 火災時の処置

- 適切な消火剤 : 大量の水が有効。水噴霧、泡消火剤、乾燥砂類。
使ってはならない消火剤 : 棒状放水、炭酸ガス、粉末消火剤、ハロゲン化物
特有の危険有害性 : 摩擦、熱、火花及び火災で発火するおそれがある。
粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
熱により自己分解や自然発火を引き起こすおそれがある。
蒸気又は粉じんが空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。
特有の消火方法 : 消火に使用した水の流出は、環境汚染を引き起こすおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、自然発火の危険性があるため、移動させない。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護 : 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
全ての着火源を取り除く。
環境に対する注意事項 : 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
回収、中和 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
裸火禁止。
漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。
事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
すべての着火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項 : 裸火禁止。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管
技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日:2023/01/11

保管条件	: 保管場所には換気装置を設置する。 日光や高温多湿を避けて保管する。 容器は遮光し、冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
混触危険物質	: 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
容器包装材料	: 酸化剤、金属粉末、硝酸塩、亜硝酸塩、重金属塩、可燃物 ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH)	: 生物学的ばく露指標): 設定されていない。 設定されていない。
設備対策	: 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶
色	: 白色
臭い	: データなし
pH	: 3~4 (5w/v%水溶液、25)
融点	: 分解(170)
凝固点	: データなし
沸点	: 分解
引火点	: データなし
可燃性	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 1.88 g/cm ³ (20)
比重	: データなし
溶解度	: 水に溶けやすい(58.7g/100mL、20)。 エチルアルコール、ベンゼン、エーテル、二硫化炭素にほとんど溶けない。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = -3.6
発火点	: 120
分解温度	: 170
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

自己反応性化学品	: 分子内に自己反応性に関連する原子団を含むが、 国連危険物輸送勧告がクラス8、容器等級(国連番号2865)に 区分されており、タイプGと分類した。
爆発物	: 国連危険物輸送勧告がクラス8、容器等級(国連番号2865)に 区分されており、区分に該当しないとした。
可燃性固体	: 国連危険物輸送勧告がクラス8、容器等級(国連番号2865)に 区分されており、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 発火点が120 (IUCRID (2000))で、70 を越えていることから、 区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 国連危険物輸送勧告がクラス8、容器等級(国連番号2865)に 区分されており、区分に該当しないとした。
酸化性固体	: 「酸化性物質ではない(no oxidizing property) (IUCRID (2000))」との記述から、区分に該当しないとした。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日：2023/01/11

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

- ： 通常の取扱条件において安定である。
強力な還元剤であるとともに、酸化剤でもある。
- 危険有害反応可能性： 高温面や炎に触れると分解して、腐食性のフューム(イオウ酸化物)を生成する。
強力な還元剤で、酸化剤、金属粉末、硝酸塩、亜硝酸塩、重金属塩と激しく反応する。
水溶液は中程度の強さの酸であり、亜鉛などの金属を腐食するおそれがある。
強アルカリ性物質と混触すると、激しく反応することがある。
強アルカリと接触するとヒドロキシルアミンを遊離するが、ヒドロキシルアミンは不安定で、59℃以上で爆発的に分解する。
強アルカリの存在下で加熱するとヒドロキシルアミンが遊離して爆発的に分解する。
高濃度の水溶液を加熱する場合は、鉄イオンの存在により発熱分解が促進され爆発することがある。
- 避けるべき条件： 高熱、日光、裸火
- 混触危険物質： 酸化剤（硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等）、金属粉末、硝酸塩、亜硝酸塩、重金属塩、可燃物、強アルカリ性物質
- 危険有害な分解生成物： 硫酸化物、窒素酸化物

11. 有害性情報

- 急性毒性： 経口 ラット LD50 = 642 mg/kg (IUCLID (2000))
飲み込むと有害(経口)(区分4)
経皮 ウサギ LC50 = 1500-2000 mg/kg (IUCLID (2000))
皮膚に接触すると有害(経皮)(区分4)
吸入(蒸気) 分類できない。
吸入(粉じん) 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性： ウサギを用いた試験で80%水溶液の20時間適用で刺激性(重度～軽微な紅斑がみられ8日後に回復)、40%水溶液の20時間適用で刺激性、25%水溶液の20時間適用で刺激性なし(IUCLID (2000))の結果からJIS分類基準の区分に該当しない(国連分類基準の区分3)とした。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性： ウサギを用いた試験で、25%水溶液(被験物質6mg相当)の1時間適用で軽微な刺激性(紅斑が24時間まで見られる)、40%水溶液の適用で軽微な刺激性(軽微な発赤、浮腫が見られ24～48時間で回復)とされているが(IUCLID (2000))、50mgの24時間適用で重度の刺激性(軽微な紅斑、重度の浮腫、角膜混濁がみられ8日間継続)とされ(IUCLID (2000))、更にEUの分類においてXi; R36/38であることから、区分2Aとした。
強い眼刺激(区分2A)
- 呼吸器感作性： 分類できない。
- 皮膚感作性： モルモットを用いたマキシマイゼーション試験とパッチテストでいずれも陽性(IUCLID (2000))であり、ヒトの複数のパッチテストでも明確な陽性反応(IUCLID (2000))が観察されている。EUの分類がXi; R43であり、MAK/BATにShの記載があることから、区分1とした。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ(区分1)
- 生殖細胞変異原性： 区分に該当しない。
マウスを用いた腹腔内投与による優性致死試験(in vivo経世代変異原性試験)で陰性、マウスを用いた腹腔内投与による精原細胞を用いる細胞遺伝学的試験(生殖細胞in vivo変異原性試験)で陰性、マウスを用いた強制経口投与による小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)で陰性の結果(いずれもIUCLID (2000))であった。
- 発がん性： 分類できない。
マウスの雌C3H/HeN (provirus carrier)を用いた123週間の飲水による試験において肝細胞がん、肺腺腫、リンパ腫、卵巣腫瘍の発生は対照群と比較して有意ではなかったが、脾臓の血管腫瘍の増加が認められている(IUCLID (2000))。マウスの雌雄(C3H/HeJ(+)) (Virus carrier)を用いた105週間の飲水による試験において雄のリンパ節の血管腫瘍とリンパ腫の増加が認められている(IUCLID (2000))。マウスの雌雄(AKR(m.), C3H(f.), Swiss(m.))を用いた生涯にわたる混餌による試験において腫瘍の発生は減少がC3Hにおいて認められているが、腫瘍発生は認められていない(IUCLID (2000))。なお、血管腫瘍の増加は認められたマウスはprovirus carrierにおけるデータであり、他の動物種でのデータがないことから分類できないとした。
- 生殖毒性： 分類できない。
ラットの器官形成期に強制経口投与した発生毒性試験(OECD TG-GLP)では母体への影響として脾臓の重量増加と血液毒性(溶血性貧血)が観察されたが、仔に関しては催奇形性や先天性異常は認められていない(IUCLID (2000))。しかし、親の性機能、生殖能に関するデータがなく、分類できない。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日：2023/01/11

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)：ラットを用いた経口投与試験において、ガイダンスの区分2に該当する370mg/kgの用量で軽度のチアノーゼ、無関心、緊張減退、麻痺が見られ、他のラットを用いた経口投与試験において、ガイダンスの区分1に該当する250mg/kgの用量でチアノーゼ、区分2に相当する2500mg/kgの用量でチアノーゼ、流涙、麻痺がみられた。また、ウサギを用いた経皮投与試験で用量ガイダンスの区分1に相当する100mg/kg以上の用量でチアノーゼ、脾臓の腫脹がみられ、他のウサギを用いた経皮投与試験ではガイダンスの区分1に該当する500mg/kgの用量でチアノーゼ、低体温、赤血球数の減少、網状赤血球数の増加、脾臓の腫脹が認められている(IUCLID(2000))ことから区分1(血液)、区分2(中枢神経系)とした。
血液の障害(区分1)
中枢神経系の障害のおそれ(区分2)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)：ラットを用いた4週間の経口投与試験(飲水)(用量：25、100、400、1600mg/L(換算値2.25、9、36、144mg/kg))のガイダンスの区分1に相当する36mg/kg(90日換算12、48mg/kg)以上の用量において溶血性貧血と脾臓の腫脹が見られ、3ヶ月間の経口投与試験(飲水)(用量：10、50、250mg/L(換算値ca. 0.9、4、21mg/kg))においてはガイダンスの区分1に該当する4、21mg/kgの用量で溶血性貧血と脾臓の腫脹(IUCLID(2000))が認められている。また、ウサギを用いた3週間の経皮試験(用量：0.73、1.47、5.85、11.7mg/kg)ではガイダンスの区分1に相当する1.47mg/kg(90日換算：0.37mg/kg)の用量で貧血が観察(IUCLID(2000))されたため区分1相当であるが、リスト2のデータであるため、区分2(造血系)とした。
長期又は反復ばく露による造血系の障害のおそれ(区分2)

誤えん有害性

：分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：甲殻類(ミジンコ)48h-EC50 = 5.0mg/L (IUCLID 2000)
水生生物に毒性(区分2)

水生環境有害性 長期(慢性)：区分に該当しない。
急性毒性区分2であり、無機物であることから急速分解性はないと判断されるが、藻類での96h-EC0 = 5,000mg/L (IUCLID 2000)であることから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性

：データなし

生物蓄積性

：低濃縮性。Log Pow = -3.6

土壤中の移動性

：データなし

オゾン層への有害性

：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
水に溶解して噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラパ付き焼却炉の火室で焼却する。

汚染容器及び包装

：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 [UN No.]

：2865

品名 [Proper Shipping Name]

：硫酸ヒドロキシルアミン [硫酸ヒドロキシルアンモニウム]
[HYDROXYLAMINE SULPHATE]

国連分類 [UN Hazardous Class]

：クラス 8 [CLASS 8]
[腐食性物質 [Corrosive substances]]
副次危険 -

容器等級 [UN Packing Group]

：III

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日：2023/01/11

海上規制情報：IMOの規定、IMDGに従う。
海洋汚染物質（海洋汚染面からの危険物）：非該当〔No〕
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類：非該当〔No〕
少量危険物許容量：5kg
航空規制情報：ICAO/IATAの規定に従う。
陸上規制情報：ADR/RIDの規定に従う。

国内規制：
陸上規制情報：毒物及び劇物取締法、消防法、道路法等の規定に従う。
海上規制情報：船舶安全法、危規則等の規定に従う。
航空規制情報：航空法の規定に従う。
特別の安全対策：
・ 収納容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積載し、荷崩れ防止を確実にし、収納容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。その他一般的な注意事項は、7.取扱いおよび保管上の注意の項による。
・ 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。
・ 運搬中に収納容器から著しく漏れる等の災害が発生する恐れがある場合、災害防止の応急処置を講ずると共に、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報する。
・ 車輛等による運搬の際には、荷送人は運送人にイエローカードを携帯させる。
・ ローリー、運搬船には所定の標識板、消火設備、災害防止用応急資材を備える。

緊急時応急処置指針番号：154

15. 適用法令

労働安全衛生法：非該当。
ただし、R7年4月1日以降、次のように該当。
名称等を表示すべき危険物及び有害物
「硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)、対象重量%は1」
名称等を通知すべき危険物及び有害物
「硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)、対象重量%は0.1」
(別表第9)
化審法：ヒドロキシルアミンは優先評価化学物質。
・ 官報公示日：2012/12/21
・ 指定の根拠：人健康影響
本品はヒドロキシルアミンと硫酸の塩であるため、優先評価化学物質に該当する。
毒物及び劇物取締法：劇物「ヒドロキシルアミン塩類」、包装等級
消防法：危険物 第5類 ヒドロキシルアミン塩類 (第2種自己反応性物質)
危険等級
化学物質排出管理促進法(PRTR法)：非該当〔2023年(R5年)4月1日施行にも非該当〕
船舶安全法：腐食性物質
航空法：腐食性物質
港則法：腐食性物質
海洋汚染防止法：非該当
水質汚濁防止法：有害物質(施行令第二条)
「アンモニウム化合物」
〔排水基準〕100mg/L (アンモニア性窒素×0.4、
亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の
合計量)
生活環境項目(施行令第三条第一項)
「水素イオン濃度」
〔排水基準〕・ 海域以外の公共用水域に排出されるもの
5.8以上8.6以下
・ 海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
(注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令：キャッチオール規制(別表第1の16項) 第28類 無機化学品
HSコード：2825.10
第28類 無機化学品
・ 輸出統計番号(2023年1月版)：2825.10-000
「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び金属過酸化物
- ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩」
・ 輸入統計番号(2023年1月1日版)：2825.10-090

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

硫酸ヒドロキシルアンモニウム〔硫酸ヒドロキシルアミン；硫酸ビス(ヒドロキシルアンモニウム)〕 改訂日：2023/01/11

「ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩並びにその他の無機塩基、金属酸化物、金属水酸化物及び金属過酸化物
- ヒドラジン及びヒドロキシルアミン並びにこれらの無機塩
- 2 その他のもの：ヒドロキシルアミン及びその無機塩」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。